

代々木図書館新聞

よぎとしゃんぶん

渋谷区立代々木図書館 03-3370-7566

〒151-0053 渋谷区代々木 3-51-8 代々木区民施設 4F

Vol. 24
2013年9月15日

左:『菜の花畑に入り日うすれ』三田英彬著、理論社
右:『定本高野辰之』芳賀綾監修、郷土出版社



代々木図書館 2013年9・10・11月の予定

9月

- 9月19日(木) 15時～15時30分
おはなし会
- 9月21日(土) 15時～15時30分
おはなしとこうさく会
- 9月26日(木) 15時～15時30分
おはなし会
- 9月28日(土) 9時～
雑誌リサイクル

10月

- 10月3日(木) 15時～15時30分
おはなし会
- 10月17日(木) 15時～15時30分
おはなし会
- 10月19日(土) 15時～15時30分
おはなしとこうさく会
- 10月24日(木) 15時～15時30分
おはなし会
- 10月26日(土) 9時～
雑誌リサイクル
- 10月31日(木) 15時～15時30分
おはなし会

11月

- 11月7日(木) 15時～15時30分
おはなし会
- 11月16日(土) 15時～15時30分
おはなしとこうさく会
- 11月21日(木) 15時～15時30分
おはなし会
- 11月23日(土) 9時～
雑誌リサイクル
- 11月28日(木) 15時～15時30分
おはなし会

高野辰之の業績 志をはたして いつの日にか帰らん

●名曲の生みの親

渋谷川の支流河骨川がモデルと言われる「春の小川」の作詞者高野辰之博士は、明治9年に現在の長野県豊田村に生まれましました。村は千曲川が流れる自然豊かな土地で、美しい山や川、一面の菜の花畑が、後に歌の原点になったと言われています。明治42年文部省小学校唱歌教科書編纂委員を嘱託された辰之は、「尋常小学校唱歌」の作詞に当たり数々の名曲を生み出しました。しかし、長い間作者の名が明かされることはありませんでした。現在では「春の小川」「故郷」「朧月夜」「紅葉」「春が来た」「日の丸の旗」が高野辰之の作詞として公認されています。

●本業は国文学者

辰之は長野県尋常師範学校を卒業後、母校の教諭を経るなど

して、東京帝国大学教授の上田萬年博士(作家円地文子之父)のもとで国文学の研究をするため上京。当時未開の分野であった邦楽の研究に没頭し、数々の業績を残します。

大正14年『日本歌謡史』の研究論文に対して、東京帝国大学から文学博士の学位を授与され、昭和3年には帝国国学院賞の栄誉に輝きます。また、辰之は偉大な教育者でもありました。東京

●日本人の心の歌

音楽学校をはじめ東京帝国大学、國學院大学、大正大学などで教壇に立ち、その講義内容はドラマチックで毎回立ち見が出る程の人気だったということです。

「故郷」は長野オリンピックの閉会式で歌われ、広く世界に知れ渡りました。辰之の歌は、これからも歌い継がれていくことでしょう。



上: 小田急線代々木八幡駅近く『春の小川』歌碑
下: 高野辰之の住居跡は、代々木図書館の斜向かいにあります!

2013年9月・10月・11月の休館日

9月 15(日)・17(火)・24(火) 10月 1(火)・8(火)・10(木)・15(火)・20(日)・22(火)・29(火)

11月 5(火)・12(火)・14(木)・17(日)・19(火)・26(火)

この新聞は代々木図書館で働いているスタッフが作っています。



軽やかに
よく回るんです

なつやすみ こうさく会

今年のなつやすみこうさく会は、夏祭りの夜店などでよく見かけるかざぐるまを作りました。色の違う紙を組み合わせてつくる8枚羽根のかざぐるまです。

折り紙2枚にそれぞれ切り込みをいれて重ね合わせ、端を順序よく芯に差し込んでいきます。羽根に好きな絵を描いて、シールを貼って、素敵なかざぐるまの出来上がり。息を吹きかけたり、エアコンの風をあててくるくる回したり、楽しいひとときを過ごしました。

夏休みにはいったばかりの7月20日、4人の小学生が図書館の仕事を体験しました。カウンターでの貸出・返却、予約本やブックポスト返却本の処理など、真剣に取り組んでくれました。本に透明なフィルムをかけるのはなかなか難しいのですが、とても上手な仕上がりました。最後にそれぞれのおすすめの本を紹介するポップを書いてくれました。並べて置いた本は直ぐに借りられていきましたが、ポップは児童コーナーにあります。ご来館の際には是非ご覧ください。

一日図書館員



本にフィルムをかけます。真剣そのもの

本を紹介するポップ

渋谷の文学② 江戸川乱歩

— 怪人二十面相の隠れ家は代々木! —

皆さんは、かの有名な江戸川乱歩が生み出したあの「怪人二十面相」の隠れ家が代々木にあるのをご存知でしたか？

怪人二十面相は戸山ヶ原（現在の新宿区大久保辺り）など、いくつか隠れ家を持っていましたが、沢山の美術品を所蔵した本当の隠れ家は代々木にあったのです。

江戸川乱歩の作品には、代々木をはじめ渋谷区の間所が多く登場します。東京や銀座が都市の象徴として描かれているの比べ、渋谷区は自然豊かな東京の郊外として描かれ、当時の渋谷区の様子を垣間見ることが出来ます。

江戸川乱歩のハラハラドキドキの冒険活劇を味わいながら、所々登場する渋谷の描写を楽しんでみて下さい。



左:『江戸川乱歩全集』 江戸川乱歩著、講談社
下:『少年探偵』 江戸川乱歩著、ポプラ社

インターン生を受け入れました

8月は大学生がインターンとして1ヶ月間、図書館の仕事を体験しました。働くうちに、より多くの人に図書館を利用していただくにはどうしたら良いかと、一生懸命に考えるようになったそうです。スタッフも学ぶことの多い1ヶ月でした。



今号の「最近これ読みました」は、本が大好きな彼からのおすすめです。

最近これ読みました④

『銭の戦争』

波多野聖 / 著 角川春樹事務所

相場は人を狂わせる——そう言った井深雄之助の次男、享介は弱冠12歳にして相場師としての才能を露ささせる。

日露戦争の頃を舞台に、18歳の井深享介が相場の世界で天国と地獄を経験し、魔王と呼ばれるまでの歴史ロマン第1弾です。その多才ぶりは凄まじく、主人公とはいえ憎たらしくなるほどです。相場の話のさすがが奇兵隊やラスプーチンも暗躍させる著者に振り回されてみてはいかがでしょうか。



編集後記

このところ「地元に帰ろう」という歌を聞きながら、泣き笑いの日々です。これも新ふるさとの歌ですね。ところで、高野辰之と同郷の作家・猪瀬直樹（現東京都知事）が『ふるさとを創った男』（日本放送出版協会など）を書いています。格調高い美しい言葉に加え、「故郷」に込められた辰之の思いに触れ、更に歌の味わいが深まりました。

ご紹介した本は、すべて渋谷区立図書館で借りられます。